

-2020-

令和2年度

作品集

小学生対象

第24回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」

中学生対象

第42回「少年の主張京都府大会」

はじめに

(公社) 京都府青少年育成協会では、明るい家庭づくりや青少年の豊かな心を育むため、小学生を対象とした「明るい家庭づくり(家庭の日) 絵画展」、中学生を対象とした「少年の主張京都府大会」の二つの公募事業を行っています。

「明るい家庭づくり(家庭の日) 絵画展」は、小学生の目から見た家族や家庭内での微笑ましいふれあいを絵に表現することを通して、子どもたちの健やかな成長にとって家庭の役割の大切さを再認識することを目的として実施しています。第二十四回となる本年度は、四十九校から四百八十三点の心温まる絵画作品の応募をいただき、知事賞には、萩田廉平さん(木津川市立城山台小学校三年生)の作品が選ばれました。入賞された作品二十三点及び佳作三十五点による入賞等作品展を一月六日から五月六日にかけて、府内十八箇所で行います。(※佳作は、お住まいの市町村の会場のみ展示し、京都府庁会場は入賞者のみ、城陽市立の佳作は久御山町会場に展示します。)

「少年の主張京都府大会」は、人格を形成する上で重要な時期にある中学生が、日常生活の中で感じていることや考えていることなどを自分の言葉でまとめ、それを「少年の主張」として広く訴える機会を設け、社会の一員としての自覚と行動を促していくことを目的として、昭和五十四年度から実施しています。第四十二回の本年度は、二十三校から千五百八十六編の素晴らしい作文の応募をいただき、事前審査委員会で選出された十七名の中学生が、京都府大会において主張を発表しました。

京都府大会で京都府知事賞に輝いた白岩璃奈さん(京田辺市立培良中学校二年生)は京都府代表として、十一月に開催された全国大会(Meeting開催)において、国立青少年教育振興機構努力賞を受賞されました。

御応募いただいた小学生・中学生の皆さんをはじめ、事業の実施に御支援・御協力をいただきました学校や保護者の皆様並びに関係機関・団体の皆様、さらには熱心に作品の審査をしていただきました審査委員の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。

この冊子では、それぞれの事業で入賞された作品を紹介しております。御高覧いただき、小学生の抱く家庭の温かさ、中学生の思いや主張をそれぞれの作品から感じ取っていただければ幸いです。

そして、これらの事業が応募いただいた皆さんの心の成長の一助となりますことを念願いたしますとともに、取組の裾野が広がり、青少年の健全育成の輪が一層広がっていくことを期待します。

令和三年一月

公益社団法人京都府青少年育成協会

会長 上田 静 男

目次

第二十四回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」

◇第二十四回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」概要……………2

◇入賞者、佳作者一覧……………3

◇入賞作品……………4

◇講評……………9

第四十二回「少年の主張京都府大会」

◇第四十二回「少年の主張京都府大会」概要……………10

◇入賞者、佳作者一覧……………11

◇入賞作文……………12

◇講評……………29

◇第四十二回「少年の主張全国大会」内閣総理大臣賞 受賞作文……………30



第24回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」概要

1 趣旨

小学生の眼から見た家庭内での微笑ましいふれあいを絵に表現することを通して、子どもたちの健やかな成長にとって家庭の役割の大切さを再認識していただくため、第24回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」を実施した。

2 主催 公益社団法人京都府青少年育成協会

3 後援 京都府・京都府教育委員会・京都市・京都市教育委員会・京都市市町村教育委員会連合会・京都府小学校校長会・京都市小学校校長会・京都私立小学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞社京都支局・読売新聞・京都総局・産経新聞社京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都(順不同)

4 作品募集

- (1)題材 親子や家庭におけるほほえましい雰囲気等を表現したもの。
- (2)対象 京都府内の小学校及び特別支援学校小学部に在籍している児童。
- (3)大きさ 四つ切(38cm×54cm)、横書き
- (4)画材等 自由
- (5)募集締切 令和2年9月7日(月)(当日消印有効)
- (6)応募方法 必要事項を記入した所定の応募票(*2)を作品裏面にのりづけして、各学校で取りまとめて、京都府青少年育成協会事務局へ応募する。なお、個人で応募される場合は、直接京都府青少年育成協会事務局へ送付も可とする。
*1 作品は、一人一作品で未発表、自作のものに限る。
*2 応募票は、京都府青少年育成協会ホームページからダウンロードすること。
【HP <http://www.kyoto-seishonen.or.jp/>】

5 審査及び入賞作品等

- (1)入賞作品等 京都府知事賞1点 京都府青少年育成協会会長賞1点 京都府教育委員会教育長賞1点 京都市長賞1点 京都市教育長賞1点 京都市市町村教育委員会連合会会長賞1点 京都府小学校校長会会長賞1点 京都市小学校校長会会長賞1点 京都新聞賞1点 NHK京都放送局局長賞1点 /10点 優秀賞 /13点 佳作 /35点
- (2)審査 審査委員会で入賞及び佳作を決定した。
- (3)審査委員 (50名順・敬称略)
上田 静 男(委員長)
新井 弘 徳(委員) 荻原 博(委員) 久米 昌 代(委員)
谷本 和 子(委員) 二宮 靖 男(委員) 法橋 秀 明(委員)

6 表彰

令和3年1月17日(日)、本願寺間法会館「多目的ホール」において、入賞者の表彰と入賞作品の展示を行った。

7 入賞作品展の開催

①京都府庁会場	(京都府庁2号館)	1月6日(水)10時~8日(金)16時
②京都市会場	(京都市中京区役所)	1月12日(火)13時~14日(木)15時
③精華町会場	(精華町役場)	1月18日(月)13時~22日(金)12時
④宇治田原町会場	(宇治田原町総合文化センター)(火曜日休館)	1月23日(土)9時~28日(木)12時
⑤京田辺市会場	(京田辺市立中央公民館)(月曜日は休館)	1月29日(金)9時~2月5日(金)12時
⑥亀岡市会場	(亀岡市役所)	2月7日(日)9時~16時
⑦南丹市会場	(南丹市八木市民センター)(土曜日・日曜日は、ギャラリーのみ開館)	2月12日(金)9時~17日(水)12時
⑧綾部市会場	(あやべ・日東精工アリーナ(綾部市民センター))	2月18日(木)9時~24日(水)12時
⑨福知山市会場	(福知山市立図書館中央館)(月曜日は休館)	2月25日(木)9時~3月3日(水)12時
⑩舞鶴市会場	(舞鶴市役所)(土曜日・日曜日は閉庁)	3月4日(木)9時~12日(金)12時
⑪宇治市会場	(宇治市役所)	3月16日(火)13時~19日(金)12時
⑫南山城村会場	(南山城村文化会館(やまなみホール))	3月20日(土・祝)9時~26日(金)12時
⑬久御山町会場	(久御山町役場)	3月29日(月)12時~4月2日(金)12時
⑭乙訓会場	(京都府乙訓総合庁舎)	4月5日(月)9時~9日(金)12時
⑮与謝野町会場	(与謝野町生涯学習センター(知遊館))	4月20日(火)13時~25日(日)17時
⑯宮津市会場1	(宮津阪急ビル(ミツプル)浜町ギャラリー)	4月27日(火)13時~30日(金)12時
⑰宮津市会場2	(京都府立青少年海洋センター(マリオンピア))	5月1日(土)9時~6日(木)12時
⑱木津川市会場	(木津川市役所)(土曜日・日曜日は閉庁)	5月7日(金)9時~13日(木)12時

8 その他

- (1) 応募者には、参加賞を進呈した。
- (2) 入賞作品は、入賞作品展で掲示するほか作品集、カレンダー、啓発資料等に活用する。
(作品の活用時に、作品の画題及び学校名・学年・氏名を記載する。)
- (3) 入賞作品の著作権は、(公社)京都府青少年育成協会に帰属すること。

第24回「明るい家庭づくり(家庭の日) 絵画展」



入賞作品及び入賞等作品展の報告は、
(公社)京都府青少年育成協会の HP から
ご覧いただけます。

URL
<http://www.kyoto-seishonen.or.jp/>



入賞

入賞者・佳作者一覧

賞	テーマ	氏名	学校・学年
京都府知事賞	家族でレッツゴー	萩田 廉平	木津川市立城山台小学校 3年
京都府青少年育成協会会長賞	おいしいごはん	伊田 柚歩	精華町立山田荘小学校 2年
京都府教育委員会教育長賞	楽しい家族のお誕生日会	奥田 杏梓	精華町立精北小学校 2年
京都市長賞	おはかそうじ	堀口 桃寧	京都市立神川小学校 2年
京都市教育長賞	行ってきます!	平田 夏苗	京都市立神川小学校 6年
京都市市町村教育委員会 連合会会長賞	おたんじょうびかい	乾 陽奈	木津川市立南加茂台小学校 1年
京都府小学校校長会会長賞	弟をだっこする私	福北 優菜	相楽東部広域連立立南山城小学校 2年
京都市小学校長会会長賞	ほほえましい家族	竹谷 紗和	京都市立洛央小学校 5年
京都新聞賞	家族の日	伊藤 爽	京都市立山階小学校 6年
NHK 京都放送局局長賞	いまからおでかけ	西田 康祐	木津川市立南加茂台小学校 1年
優秀賞	かぞくなかよくスイカ	中川 愛莉	木津川市立梅美台小学校 1年
優秀賞	いもうとうまれてみんなハッピー	太田 麗	木津川市立梅美台小学校 1年
優秀賞	かぞくておでかけ	吉崎 仁菜	木津川市立南加茂台小学校 1年
優秀賞	みんなではなび	黒石 愛心	木津川市立南加茂台小学校 1年
優秀賞	かぞくていっしょにすいかわり	藤田 心葉	精華町立精華台小学校 1年
優秀賞	かぞくてばんごはん	辻邨 彩良	京都市立朱雀第七小学校 2年
優秀賞	休日の公園日和	坂口 奈々	木津川市立梅美台小学校 2年
優秀賞	あつийよる	高山 実乃里	宇治市立原町立宇治原小学校 2年
優秀賞	かぞくのひまわり	菊地 礼華	舞鶴市立中舞鶴小学校 2年
優秀賞	大すきな家族	小倉 湊	京都市立錦林小学校 3年
優秀賞	家族みんなで虫とりをする絵	岡田 樹	木津川市立城山台小学校 3年
優秀賞	家族で笑顔のたこやき	飯田 璃空	京都市立正親小学校 4年
優秀賞	私がお姉ちゃんになった日	竹内 希	木津川市立州見台小学校 4年

佳作

氏名	学校・学年	氏名	学校・学年
小畑 優月	京都市立西院小学校 5年	黒川 楓花	木津川市立梅美台小学校 1年
吉田 夏菜	京都市立西院小学校 5年	吉田 和叶	木津川市立梅美台小学校 1年
飯田 直央	京都市立正親小学校 2年	西田 惟月	木津川市立梅美台小学校 1年
中山 彩葉	京都市立太秦小学校 4年	吉田 咲良	木津川市立南加茂台小学校 1年
奈須 結希	京都市立砂川小学校 4年	花田 ひなた	木津川市立上狛小学校 1年
安丸 宗志	京都市立洛央小学校 5年	村山 月渡	久御山町立佐山小学校 4年
長谷川 凜	長岡京市立長岡第四小学校 6年	新見 徠人	宇治市立原町立宇治原小学校 1年
秋元 花恵	宇治市立大久保小学校 4年	安田 匠太	精華町立精北小学校 1年
竹内 珠菜	宇治市立大久保小学校 5年	中野 亨香	精華町立精北小学校 1年
山本 菜々美	城陽市立寺田小学校 3年	井上 紗那	精華町立山田荘小学校 2年
上村 実優	京田辺市立草内小学校 1年	紀先 翔太	精華町立山田荘小学校 2年
田中 愛紗	京田辺市立三山木小学校 1年	松田 桃花	亀岡市立保津小学校 1年
木津 杏菜	京田辺市立三山木小学校 6年	中嶋 志帆	南丹市立八木東小学校 1年
大槻 朔也	木津川市立城山台小学校 3年	宇野 蘭紗	綾部市立豊里小学校 3年
杉山 瑞姫	木津川市立城山台小学校 4年	船木 寧音	福知山市立三和小学校 3年
八方 僚吾	木津川市立州見台小学校 1年	大田 寧々	舞鶴市立余内小学校 4年
堂出 優芽	木津川市立州見台小学校 1年	小谷 太歩	宮津市立日置小学校 3年
吉田 瑠香	木津川市立州見台小学校 4年		



 京都府知事賞

「家族でレッツゴー」



木津川市立城山台小学校 3年
萩田 廉平さん

 京都府教育委員会教育長賞

「楽しい家族のお誕生日会」



精華町立精北小学校 2年
奥田 杏梓さん

 京都府青少年育成協会会長賞

「おいしいごはん」



精華町立山田荘小学校 2年
伊田 柚歩さん



👑 京都市教育長賞

「行ってきます!」



京都市立神川小学校 6年
平田夏苗さん

👑 京都市長賞

「おはかそうじ」



京都市立神川小学校 2年
堀口桃寧さん

👑 京都府小学校校長会会長賞

「弟をだっこする私」



相楽東部広域連合立南山城小学校 2年
福北優菜さん

👑 京都府市町村教育委員会
連合会会長賞

「おたんじょうびかい」



木津川市立南加茂台小学校 1年
乾陽奈さん



👑 京都新聞賞

「家族の日」



京都市立山階小学校 6年
伊藤 爽さん

👑 京都市小学校長会会長賞

「ほほえましい家族」



京都市立洛央小学校 5年
竹谷 紗和さん

👑 優秀賞

「かぞくなかよくスイカ」



木津川市立梅美台小学校 1年
中川 愛莉さん

👑 NHK京都放送局局長賞

「いまからおでかけ」



木津川市立南加茂台小学校 1年
西田 康祐さん



👑 優秀賞

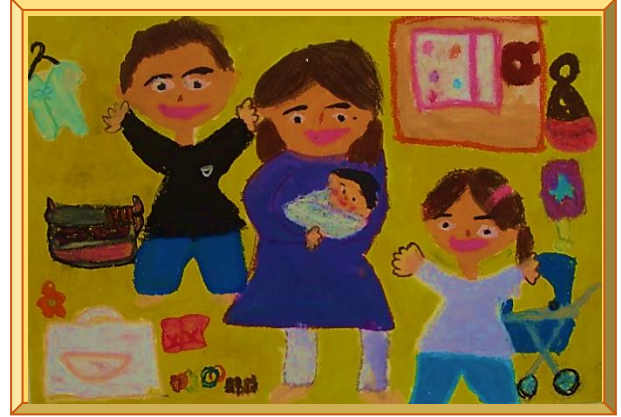
「かぞくでおでかけ」



木津川市立南加茂台小学校 1年
吉崎 仁菜さん

👑 優秀賞

「いもうとうまれてみんなハッピー」



木津川市立梅美台小学校 1年
太田 麗さん

👑 優秀賞

「かぞくでいっしょにすいかわり」



精華町立精華台小学校 1年
藤田 心葉さん

👑 優秀賞

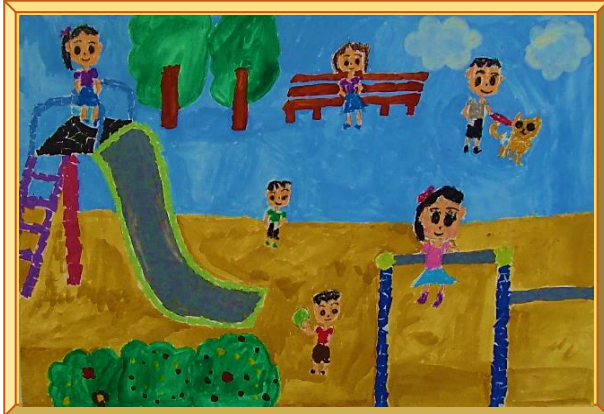
「みんなではなび」



木津川市立南加茂台小学校 1年
黒石 愛心さん

👑 優秀賞

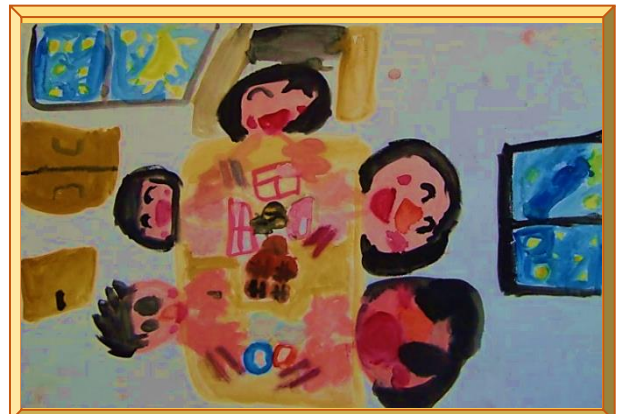
「休日の公園日和」



木津川市立梅美台小学校 2年
坂口 奈々さん

👑 優秀賞

「かぞくでばんごはん」

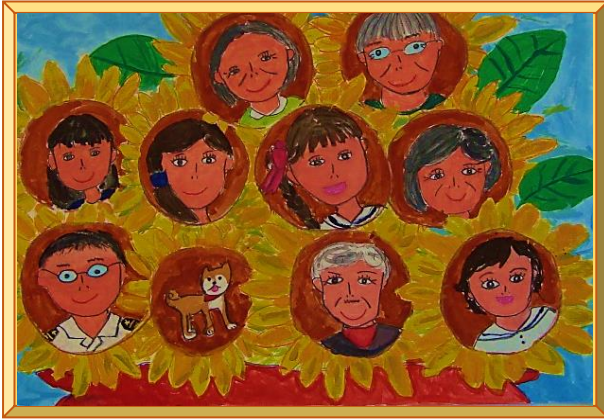


京都市立朱雀第七小学校 2年
辻邨 彩良さん



👑 優秀賞

「かぞくのひまわり」



舞鶴市立中舞鶴小学校 2年
菊地礼華さん

👑 優秀賞

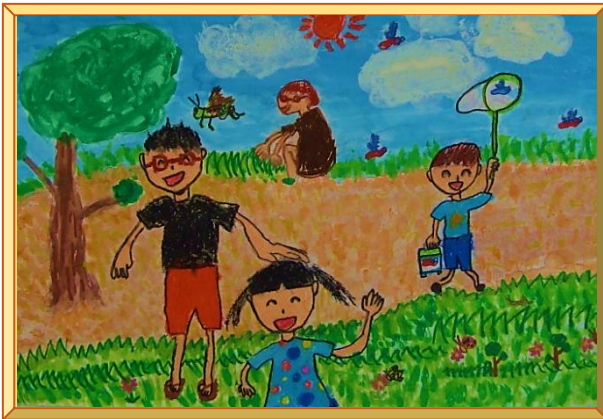
「あついよる」



宇治田原町立田原小学校 2年
高山実乃里さん

👑 優秀賞

「家族みんなで虫とりをする絵」



木津川市立城山台小学校 3年
岡田樹さん

👑 優秀賞

「大すきな家族」



京都市立錦林小学校 3年
小倉湊さん

👑 優秀賞

「私がお姉ちゃんになった日」



木津川市立州見台小学校 4年
竹内希さん

👑 優秀賞

「家族で笑顔のたこやき」



京都市立正親小学校 4年
飯田璃空さん



第24回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」

講 評

今年度の「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」には、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学校の臨時休業(休校)があったにもかかわらず、府内49校から、483点というたくさんの応募がありました。どの作品からも子どもたちが家庭を中心とした生活の中で感じた温かさや和やかな雰囲気がよく伝わってきました。また、感じたことや考えたことを懸命に絵に表そうと努力している様子が伝わり、その表現に向かう姿勢が、作品の良さを一層高めているように思いました。

子どもたちの作品は、特に、家族や友達と何かをしたときの「楽しかった」「うれしかった」という気持ちが、絵の中にあふれていました。今年度は、例年に比べ、家族で旅行やプールなどに行ったときのことを描いた作品が少なかったのですが、家の近くでバーベキューや花火をする場面、家の中でトランプをしたり昼寝をしたりくつろいでいる場面、家庭菜園に取り組んでいる場面など、コロナ禍においても家族で楽しく過ごしている様子が伝わる作品がたくさんありました。ケーキを前に家族でお祝いする、家族みんなでたこ焼きや手巻き寿司をおいしそうに食べる、赤ちゃんが生まれて家族が増えた瞬間、など家族と一緒にいること、体験できることの喜びとともに、親子や家庭内におけるほほえましい雰囲気が良く伝わってきました。

審査に当たっては、絵画としての素晴らしさはもちろん、「明るい家庭づくり運動」の趣旨に照らし、家族の心のつながりや温かい雰囲気が、それぞれの子どもらしい発想や表現で伝わってくる作品を選考しました。

家庭教育は、すべての教育の出発点です。家族のふれ合いを通して、子どもが、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけていく上で重要な役割を果たしています。

しかし、最近では社会やライフスタイルの変容を背景に、家庭でのコミュニケーションが希薄になってきているとの指摘もあります。ぜひとも、この機会に子どもたちが取り組んだ素晴らしい作品とともに、家庭の果たす役割の大切さについて考えたいところです。

コンクールを通して、改めて子どもたちの健やかな成長のために家庭の果たす役割の大切さが再認識され、家庭内での会話や豊かな体験の機会が一層増えていくことを期待しまして、審査講評とさせていただきます。

京都府教育庁指導部学校教育課
指導主事 法橋 秀明

第四十二回『少年の主張京都府大会』概要

1 趣 旨

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められている。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切である。

少年の主張京都府大会は、子どもたちにとって、これらの契機となることを願って実施した。

2 主 催

(公社) 京都府青少年育成協会・京都府PTA協議会・
京都市PTA連絡協議会・(独) 国立青少年教育振興機構

3 後 援

京都府・京都府教育委員会・京都市・京都市教育委員会・京都府市町村教育委員会連合会・京都府公立中学校長会・京都府私立中学高等学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都(順不同)

4 作文の内容

- (1) 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- (2) 家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど。
- (3) テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

5 応募対象

京都府内の中学校及び特別支援学校中等部に在籍している生徒。国籍は問わないが、日本語で発表できることが必要。
なお、作品は一人一作品で未発表、自作のものに限る。

6 経 過

(1) 作文募集

令和二年四月下旬、募集要項及びポスター等を府内各市町村・市町村教育委員会、各中学校、青少年団体、関係機関等へ配布して募集

(2) 募集締切

令和二年八月三日(月) 応募総数 千五百八十六編(二十三校)

(3) 応募作文の審査

令和二年九月三日(木)、第二次審査委員会を開催、入選十七編及び佳作二十編を選定

(4) 「少年の主張京都府大会」

令和二年九月二十七日(日)、本願寺間法会館「多目的ホール」において、本大会を開催
十七名(一名欠席)の入選者が主張を発表。審査の結果、各賞を決定

〔審査委員〕(五十音順・敬称略)

野村 大輔(委員長)
石川 一郎(委員) 上田 静男(委員) 植松 明彦(委員)
立垣 典子(委員) 坂本 博士(委員) 水谷 公祐(委員)
村田 博哉(委員) 柳澤 彰紀(委員)

(5) 「少年の主張」全国大会への推薦

令和二年十一月八日(日)に開催された全国大会(≒eet開催)の出場候補者として、京都府知事賞を受賞した京田辺市立培良中学二年生白岩璃奈さんを推薦し、審査の結果、国立青少年教育振興努力賞を受賞された。

(6) その他

「少年の主張京都府大会」の様様をネット配信しました。

第42回「少年の主張京都府大会」



入賞（発表順）

入賞者・佳作者一覧

賞	テーマ	氏名	学校・学年
京都府PTA協議会会長賞	歴史が教えてくれたこと	甲賀 壮真	向日市立寺戸中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	制服の在り方	松山 優里	京田辺市立田辺中学校2年
京都府公立中学校長会会長賞	視野を広げて	田中 知里	南丹市立園部中学校3年
京都府教育委員会教育長賞	わたしのおばあちゃん	伊東 凜乃	向日市立西ノ岡中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	人と自分を比較して	上川 礼	京都府立南陽高等学校附属中学校2年
京都市教育長賞	大人だから	新井ひかる	京都市立勸修中学校3年
京都新聞賞	私の準備期間	橋本 青空	向日市立西ノ岡中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	紙の本と電子書籍	山田 陽菜	京田辺市立大住中学校2年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	笑顔に笑顔で伝える言葉	竹根 一花	京都府立福知山高等学校附属中学校2年
京都府知事賞	二つの祖国の間で考える	白岩 璃奈	京田辺市立培良中学校2年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	スマホの使い方	龍見 祐汰	京都府立洛北高等学校附属中学校3年
KBS京都賞	臓器移植について考える	谷口 優美	亀岡市立東輝中学校2年
京都市町村教育委員会連合会会長賞	命を選択する	小谷 和	与謝野町立江陽中学校3年
京都市PTA連絡協議会会長賞	SNSの情報との向き合い方	山田 美優	京都市立勸修中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	自分次第	北畑 美優	向日市立西ノ岡中学校3年
京都府青少年育成協会会長賞	「心の眼」で見る社会	吉岡 桃奈	京丹後市立大宮中学校3年
京都府青少年育成協会会長奨励賞	人を思いやるということ	加藤 小暖	向日市立勝山中学校1年

佳作

氏名	学校・学年	氏名	学校・学年
上田 愛美	京都市立勸修中学校3年	戸本 美羽	南丹市立美山中学校3年
梅田野々栞	京都市立勸修中学校3年	古屋 愛理	南丹市立美山中学校3年
小川 千莉	向日市立勝山中学校1年	後藤 愛里	福知山市立六人部中学校2年
武田ことは	向日市立勝山中学校1年	小谷 海月	与謝野町立加悦中学校3年
青山 琴音	向日市立西ノ岡中学校3年	井上 沙英	与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校3年
井上 一愛	向日市立西ノ岡中学校3年	加藤 瞭惺	京都府立洛北高等学校附属中学校3年
田中 彩華	向日市立西ノ岡中学校3年	河村 唯佳	京都府立洛北高等学校附属中学校3年
末廣 心晴	久御山町立久御山中学校3年	辻 拓真	京都府立洛北高等学校附属中学校2年
奥田 千夏	宇治田原町立維孝館中学校3年	福井 里奈	京都府立洛北高等学校附属中学校3年
入江 琥珀	亀岡市立東輝中学校2年	河井真愛紗	京都光華中学校3年

京都府PTA協議会会長賞

「歴史が教えてくれたこと」

向日市立寺戸中学校 3年

甲 賀 壮 真



僕は昨年の一、向日市ふるさと検定を受験しました。僕のふるさとである向日市の歴史について、まだ学校で習っていない範囲も基礎から勉強しました。独学では難しい部分もあり、たいへん苦労しました。しかし、そのうち新しく知った事柄が元々知っていた知識と繋がっていくのが嬉しくなると、「もっと知りたい」と自然にテキストに手が伸びました。そんな中、僕が歴史を学ぶことの意味や面白さについて、前よりも奥深いところを知るきっかけとなった二つの事柄があります。

一つ目は、「地名」についてです。向日市の歴史に関する本を読んでいた時に、奈良時代の書物にも「物集女」という向日市の地名が書かれているのだと知りました。つまり、千四百年もの間受け継がれて来たということになります。また、向日市の名前の由来となった向日神社のもとであ

る「向（むかえ）神社」は平安時代中期の書物にも登場しているとも書かれていました。僕は心を揺さぶられました。千年以上も前の人が生み出した地名を、今、僕らが当たり前のように使っている。本当に素晴らしいことだと思いました。翌日、家族で出かけた時、道で「物集女」と書かれた看板を見かけました。いつも素通りしていた看板でしたが、その日は思わず立ち止まってしまいました。

僕が歴史を学ぶ意味と面白さを実感した二つの事柄は「遺跡の発掘」についてです。向日市には古墳や長岡京跡など、数多くの遺跡が点在しています。それらの発掘調査は今も続いています。日々新しい成果が出ているそうです。中でも僕は一九五四年の中山修一氏による第一回目の長岡京跡の発掘調査について知った時、たいへん驚きました。中山氏が発掘調査に入る前の一九五〇年代、長岡京は「幻の都」と呼ばれていました。関係する資料は乏しく、調査は簡単には進みませんでした。しかし、地道な作業を続ける事なんと七年、中山氏については長岡京を掘り当てたのです。その調査を皮切りにその後何百回もの発掘調査が行われています。中山氏の人並み外れた情熱と根気の良さがなければ、長岡京の発掘には至らなかつたでしょう。僕は感じました。このような歴史上の新事実の発見は、きつとどれも中山氏のような苦労と情熱の上に成り立っているのだと。今の僕には根気が足りません。例えば意気込んで始めた趣味も辛くなったら、すぐやめたくなることがあります。そんな僕にとって、一生をかけて長岡京を発掘した中山氏の情熱は想像を超えるも

のでした。

向日市の「地名」と「発掘調査」この二つのことから、僕は歴史の持つ奥深さに改めて胸を熱くしました。歴史上の様々な文化がその長い時間の中でなぜ薄れず受け継がれてきたのか。それは、多くの人々の人生がそこにあり、その意味や面白さを、代々伝えてきたからなのです。また長岡京のように、一度廃れて幻となってしまうても、その事実を信じ、価値を見出し、血のにじむような苦労と努力で発見しようとする人もいるのです。そんな存在も、歴史の風化を止める力になると分かりました。つまり、歴史文化が後世に残るためには、「受け継ぎ伝える人」と「発見し伝える人」という二つの存在が必要なのです。

向日市という街に生まれて十五年、住み慣れたふるさとを見る目が今回の検定受検で大きく変わりました。何気なく歩いてきた丘が実は古墳だったり、何度も葉書に書いてきた地名が実は千年以上の長い歴史の中で育まれたものだったり。学べば学ぶほど生活が色鮮やかに、奥深くなっていく。それこそが歴史の面白さだったので。今回僕は向日市の歴史の一端に触れ、こんなにもこの街で暮らすことが楽しくなりました。僕は向日市民の一人として決意します。歴史を学び、歴史を受け継ぎ伝える人になることを。

京都府青少年育成協会会長奨励賞 「制服の在り方」

京田辺市立田辺中学校 2年

松山 優里



私は入学してすぐ、学校でのルール：例えば授業の受け方、掃除の仕方、部活動の約束など様々なことを知った。中学校の大きな決まりと言えは制服の着方だ。

私の学校では、男子は学ランのボタンを上まで止めること、シャツを出してはいけないこと、女子はスカートを短くしすぎないことなど様々な決まりがある。制服は学校生活を送る上でとても身近でかつ重要な存在だといえるだろう。しかし、私はそんな制服の在り方を考え直すべきだと思う。

制服はどうあるべきなのか。考え始めた時、私は単純に私服にすればよいと思っていった。個性の表現がしやすくなると考えていたからだ。約9割が私服を採用しているアメリカの学校では、一人ひとりが違うのが当たり前。だから個性は大切にしよう。こういった考え方が浸透している。私服では目に見えることのできにくい個性も、私服にすることにより目視できる。それにより個性

が尊重されやすい環境が生まれるのではないかと。

また、世界や日本にはLGBTのT、トランスジェンダーという心と体の性別が一致しない人々が少なからずいる。男女はつきりと分かれた制服では、そのような人達が混乱してしまうからだ。昨年私は学校で行われた講演会でトランスジェンダーの方の話を聞いた。やはり制服では自分の心に違和感が生じてしまったという。その人は進学先の配慮やその人自身のキャラでスカートの下にジャージをはいていても何も言われず過ごせたようだ。私服であればその心の違和感を軽減できる。また、中高生の間には私服で表される個性、性別がよく普通に受け入れられればどうか。日本の社会は多くの性別・個性を認められる社会になるはずだ。そして周囲の理解が得られれば、トランスジェンダーの方が持つ不安を打ち明けやすくなるなど、心の負担も軽減できる。

私服にするメリットとして、SNSによるトラブルを減少できる点も挙げられる。今、私達未成年でも気軽に投稿できるようなネット環境が広がっている。そんな環境がゆえに、写真に写った制服から学校などの個人情報特定されるなどのトラブルが起こってしまう。私服はそういったトラブルをなくせる。これらの点が私服にするメリットだといえるだろう。

では、私たちが今着ている制服はどんな効果をもたらしているだろう。今一度考えてみた。

まず考えられることは、風紀を正しくする、校則を守ることの大切さを学べるということだろう。先ほど一目でこの生徒かが分かる制服によるデメリットとしてSNSトラブルの発生を挙げた。が、一目でこの学校の生徒かがわかることで、犯罪や非行を抑制するという役割もある。これらのことから私服とは違うメリットが制服には多くある。

そこで、私は制服に多様性を持たせればよいと考えた。私服のように自分の個性に合う制服が選べれば、多様ではあるが制服なので制服の良さを生かせる。また男女両用のものも使用できる。二〇一八年には約七〇〇校だったが二〇二〇年には約千校と増え、実際にジェンダーレスの制服を選択できるようになっている。制服を多様にすることのメリットを活用し、それが広がりを見せているのだ。

確かに、制服より私服の方が動きやすく、着替えも楽であり、自分に合う体温調整もしやすい。私服では自由が制限されていると思う人もいるだろう。

しかし、私服では、個性が目視できると同時に、経済格差も目視でき目立つてしまうのだ。そもそも制服は一八七〇年代に軍服を洋装化したものを制服としてされたものようだ。それを「貧富の格差」を感じさせないようにと一八七九年に学習院が採用したことが日本中に広まっていったとされている。

学校の生徒の一員ということを自覚させるため、という役割もある。だが、経済格差を目立たせないようにできるという大きな役割を制服が担っているというのを忘れてはならない。また、私服では周りからの目を気にしながら服の選択をしなくてはならない、と思う人が多くいるはずだ。ほぼ毎日の着ていく服に悩む時間が増えてしまうだろう。これらの点から、制服にもっと多様性を持たせるべきだと主張する。

人の多様性が重要視されたり、認められたりされるようになってきている現代。私にとっても身近な場所、学校も制服を含める校則に変化が必要だ。自分とは違う立場の人の目線に立ち、物事を考える。このことが多くの多様性を認めあえる社会への第一歩だと考える。

京都府公立中学校長協会会長賞

「視野を広げて」

南丹市立園部中学校 3年

田中 知里



私は、野球が大好きです。小学校二年生から元のクラブチームで始めました。チームメイトと一生懸命練習し、努力してつかみ取る勝利は、涙が出るほど嬉しかったです。この大好きな野球をずっと続けていきたい、そんな思いで中学校生活が始まりました。

私の中が校には、野球部があります。しかし、男子しか入れませんでした。そこで、私と母は、中学校に直接お願いをし、女子の入部を認めてもらえることになりました。しかし、母は入る前に私にこう言いました。

「女子だからやっぱ辛いことはある。それでも頑張って続けられるか。」と。

その時の私は、「大丈夫、大丈夫火。」と軽く考えていました。あれほど一緒に野球をしてきたチームメイトと一緒にだから、辛いことなんてないだろうと思って

いました。私は身長も高く、結構上手な方だったので、そのあたりの心配はあまりしていませんでした。しかし、中一・中二と学年があがっていくにつれ、だんだんと大きくなっていくチームメイト。私より小さかったのに、あつという間に背も抜かれていきました。同時に、私たちは思春期に入っていく、男子と女子という心の壁も出てきました。そんな時、一人の部員と少しけんかになってしまい、こんな言葉を言われました。

「女のくせに野球なんかできるわけないやろ」私はこの言葉で、心に大きな深い傷ができました。次第に自信がなくなっていく、私のいない所で悪口を言われているだろうと考えるようになってしまいました。あれほど好きだった野球をやりたいくないという思いまで出てきました。そこで気が付きました。母が言っていたのはこのことなんだと。だから私は、誰にも言えず、ためこんでためこんで、一人で我慢しました。でもどうとう耐え切れなくなり、初めて母に

「野球をしたくない。」そう言ってしまった。泣きじゃくる私を母は何も言わず、静かにそっと抱きしめてくれました。すごく温かく、優しくかったです。今までため込んできた苦しみや怒りを全て涙に代えて出しました。あれほど泣いたのは何年ぶりだっただろう。

そんな出来事があり、私は中二の夏を迎えました。野球部の顧問の先生からの声かけで私は京都府の女子野球の大会に参加しました。そこでは、他の中学校でも男子に混じって女子が頑張っていることを知りました。その中に一つ年上の女の子がいて、日頃悩んでいることなどを話すことも

できました。その女の子は私にこう言いました。「君と同じくらいの頃は、私も辛いと思うことがあった。でも今はとても楽しい。今、逃げ出したらそこで終わるよ。頑張って。」と。さらにこの大会に参加して気づいたことは、女子ばかりの野球チームより、男子に混じって野球をする方の中には、楽しいと感じたことです。これは私にとって大きな発見でした。視野を広げてみて多くの経験をするものの見方が変わるものだなと実感しました。

そして三年生の先輩が引退し、私たちが野球部を引っ張っていくことになりました。女子野球に参加したこともあつて、私の中で少しずつ何かが変わってきていました。頑張れば、女の私でも通用する、そう思えば、少しぐらいの悪口も気にならなくなりました。そして時間がたつにつれ、周りのみんなも変わっていき、男子との仲もだんだん良くなっていきました。また、小学校の頃のように仲間と共に野球ができるという喜びに変わっていきました。

人は誰しも「今」が辛いとそこから逃げ出したくなります。ここまで野球を続けてきて学んだことは、辛いことがあっても何事も最後までやり抜くことの大切さと、視野を広げて見方を変えてみることの大切さです。私は、これから先どんな辛いことがあっても、逃げ出さずに頑張っていくたい。その先に、新しい道が広がっていることを信じて。

京都府教育委員会教育長賞

「わたしのおばあちゃん」

向日市立西ノ岡中学校 3年

伊 東 凜 乃



「ばあば来たよー。」
声をかけるとにっこり笑ってくれるおばあちゃん。その顔を見るとホッとします。

夏休みに冬休み、長い休みには必ずおばあちゃんに会いに行きます。…でも、本当は会うのが少し辛いです。

なぜなら、公園で私たちと元気に走り回ったり、たくさん笑わせたりしてくれた昔のおばあちゃんではないからです。私のおばあちゃんはアルツハイマー型認知症です。

それは、脳の細胞が少しずつ縮んでいき、物を覚えたり、考えたり、そのうち体を動かすことも難しくなる病気です。

病院で診断されたのは十一年前、六十六歳の時でした。少し前までは一緒に旅行に行ったりもしていたのですが、今では一人で暮らすのが難しくなり、グループホームで暮らしています。

私が小さい頃、母からは

「ばあばは忘れん坊の病気だよ。」

と聞かされていました。そのうち認知症という言葉を知り、おばあちゃんは認知症なんだと思うようになりまし。

旅行に行った時は

「ばあば行くよー。」

と、私はいつもおばあちゃんと手をつないで歩きました。おばあちゃんが不安になったり、迷子にならないようにするためです。ある日、学校で友達と話をしている時に、私が時間を間違えたり、日付を間違えたりしたら、

「認知症やん。」

と笑いながら言われたことがありました。軽いけどその一言が私の胸にグサリと刺さりました。

「冗談で言っただけでほしくなかった…。」
と思っただけです。

日本では、今、六十五歳以上の七人に一人が認知症と診断され、五年後には五人に一人が認知症になると言われています。認知症は私たちにとっても身近なことで、周りにいる大切な人がいつなってもおかしくない。そう理解しているつもりでも、会いに行くたびに、（どうしたらいいんだろ）と混乱している自分がいます。

本当は、元に戻ってほしい。一緒に遊んでほしいし、家にも泊まりに来てほしい。たくさんおしゃべりして大笑いしたい。でも、それはなかなか難しい。認知症は進行を遅らせることはできません、治すことは難しいから…。

おばあちゃんの近くで暮らす伯母は、病院の先生に

「脳の状態は深刻ですが、お母さんはギリギリまで話したり、歩いたりしてよく頑張っていますよ。」

と言われたそうです。ずっと近くで寄り添ってきただけで、その言葉に救われたと話してくれました。そして、「今でもできないことがどんどん増えてきているけれど、このままずっと寄り添っていききたい。」とも言っていました。寄り添うことで学ぶことがたくさんあり、とても感謝していると話してくれました。

私は、おばあちゃんが大好きです。そして、一緒に過ごした楽しい思い出を絶対忘れないし、これからもたくさん会いに行きたいと思っています。いつまでもばあばの笑顔が見たいです。

今、新型コロナウイルスの影響でおばあちゃんに会えない状態が続いています。グループホームでは、家族との面会も厳しく制限されています。さらに、認知症は家族と会えないことで進行が進んでしまうこともあり、すごく不安です。ですが私は命を守るために、今はがまんをするときだと思っています。今できることは、そっと心を寄せること。

認知症は、そばにいる人がいつなってもおかしくありません。そんな時に寄り添う、何もできないかもしれないけれど。そっと寄り添える人が一人でも増えたらいいなと思います。そのために自分ができることをやっと思っています。

京都府青少年育成協会会長奨励賞 「人と自分を比較して」

京都府立南陽高等学校

附属中学校

2年

上川 礼



あの人はどうしてあんなに上手なんだろう。それに比べて私はどうして上手くできないのだろう。みなさんもこういった「人との比較」をしてしまうことはありませんか。自分にできないことをできる人を見つけては自分と比較し、悲観的にとらえてしまう。そういった話を学校やSNS、いろんな場所で耳にします。私も実際、事あるごとに人と自分を比べてしまっていました。

私は小学生の頃、体育の時間が大嫌いでした。もともと運動は得意な方ではなく、むしろ大の苦手と言ってもいいほど不得意でした。体育に対してそんな感情を持っていた当時は運動ができない人はみんなに見られて運動神経がないだとか思われてしまうのにテストの点が低い人はみんなにバレないから不公平だなどという「人と比較すること」に関する不満感ばかり抱いていました。そんな当時の私ですから体育の時間という

は憂鬱で仕方のない時間だったのです。体育の中で特に嫌だったのは持久走で、いつも最後まで残ってしまい、速く走れる人と比べて自分が嫌になってしまうこともありました。人と比べてばかりの当時の私は自分のためな所ばかりに気付き、さらには自分とはとりのえない人間だとも考えてしまっていたのです。

こうして悲観的に過ごしていた中、授業で自分の似顔絵を描くという時間がありました。自分の顔を見て似顔絵を描いていると、となりの席の人は私の絵をのぞきこんでこう言ったのです。
「あやちゃんは絵が上手でうらやましい。私のなんてこんなだよ。」

私はそれを聞いた時、はっとしました。悪い所しかないと思っていた自分にもとりえがあったことに気が付いたのです。自分の良い所を初めて知ったというよりは、自分の悪い所ばかりを見ていて良い所の存在を忘れていた、気付くことができなかつた、という方が正しいと思います。このように自分の悪い所ばかり見ていると自分の良い所の存在に気付けないことがあります。つまり、人との比較にはデメリットがあるのです。育った環境、性格など人と自分は違うので、他の人について自分にはない、なんてものは当たり前なのです。逆に言えば他の人にもないものを自分は持っているとも言えます。

ですが、人と比較することがだめだと言いたいわけではありません。むしろ「成長」という点ではとても大切になると思います。例えば、あの人は足が速いのに自分は…と、人と自分を比較するとします。そこで重要なのが自分はだめだ、で止めてしまわないことです。そこで止めてしまえば、自分に対する自信がなくなるだけになります。ですから、自分はどうすればあの人みたいにな

れるのだろうかと思うことが大切なのです。自分にはないものをどんどん習得していくことを「成長」だと私は考えています。

こうして当時の私は自分より優れている人を目標にすることから始めてみました。そしてその人をよく観察してみました。すると、いろんな発見がありました。足の速い人は足のあげ方、地面のけり方、姿勢、自分と違う所がたくさんあったのです。私がさっそく実践してみると、わずかな差ではあるものの、自己ベストを出すことができました。他にも、得意だった数学に比べて答えがはつきりしていないからという理由で私は国語が苦手でした。そこで、国語が一番好きだという友達になぜなのか聞いてみると、こう答えました。
「国語は他の教科に比べていろんな正解があるから好き。」

私はその考え方があったのかとおどろき、その考え方を持って国語に取り組みました。すると、とても苦手だった文章題にも自信を持って答えを書くことができ、今ではテストで良い点をとれるようにもなりました。

このように、人と比較して自分にはないものに気づき、それを習得することが大切であり、それが成長につながるかと私は考えます。また、自分にも良い所があることを忘れないでほしいです。なので今後、人と自分を比較して悲観的になつてしまふことがあったらそれは、自分の成長のチャンスだと考えてほしいです。そうすれば出来ることが増えていき、もっと生活が豊かになると思います。自分の成長のため、努力をおこたらず、私ももっと良い自分になつていきたいと思えます。

京都市教育長賞

「大人だから」

京都市立勸修中学校 3年

新井 ひかる



「大人だから」子供の時、誰もが一度は言われた事があるこの言葉。私はとても便利な言葉だと思う。お酒を飲んでも良いのは「大人だから」たばこを吸っても良いのは「大人だから」大人はいつもこう答える。私たちは何の疑問も持たない。それが当たり前だからだ。

「四月七日から五月六日の一ヶ月間、外出の自粛を強く要請する。」

四月に出された緊急事態宣言は、このような内容だった。こうなる事は予想していたし、きっと多くの人が考えていたと思う。しかし、ある一部の人々の行動は、私の予想とは大きく違っていた。幼い女の子は、動画サイトでカメラの向こうにいる母親にこううったえる。

「電車やバスを見に行きたいけれど、今はがまんだ！」

こんなに小さいのに、きちんと理解しているんだなと感心した。動画には温かいコメントがたくさん寄せられていた。

新聞のちいさな記事。急いでいけば読みとばしてしまうようなそこには、窓にびったりとほりつく男の子の写真があった。きつと外に出て走りまわりたいに違いない。必死にがまんしている様子は、可哀想だけども微笑まじいと感じた。

そして、夕方のニュース。学校もなく、何となくつけていたテレビでそれは流れた。

「僕はうつらないから。」

彼は、笑いながら言った。開店前からパチンコ屋に並ぶ、立派な大人だった。

「まあ、別にコロナになっても……」

「僕は大人だから。自分で管理できますよ。」

そこには、一体どれほどの自信と根拠があるのだろうか。

私は、呆れとともに怒りを感じた。彼らは知らないだろうか。もう自分達だけの問題ではないことを。彼らは知らないのだろうか。自分達よりはるかに幼い子供達が、耐えていることを。

出歩くなど言われているのに勝手に出歩いて感染するのは自業自得だと思う。しかし、それを周りにうつしてしまったら？そしてもしうつしてしまったのが高齢者だったら？おそらく高い確率で重症化するだろう。最悪の場合、命を落としてしまうかもしれない。

彼らは考えなかったのだろうか。いや、一度は考えたはずだ。毎日のように流れるコロナのニュ

ースで、何度も何度も聞いてきただろう。考えた上での行動なら、それはなおさら無責任だ。

私もし彼らの子どもだったら、こう言うだろう。

「お父さん。どうして外に出るの？」

このシンプルな質問に彼らはどう答えるのだろうか。やはり、「大人だから」そう答えるのだろうか。しかしこの言葉は、大人がきちんとルールを守っている上で成立する言葉だと私は思う。この言葉の矛盾に、彼らは気づいているのだろうか。

「大人だから」この言葉を私が使う側になるのは、そう遠い未来ではない。あと五年もすれば大人の仲間入りだ。ただ、私は勝手な思い込みや、都合の良い言いわけで行動する大人にはなりたくない。

「大人だからこそ」自分の行動についてよく考え、責任をもちたい。大人は、常に子供の見本となる存在だ。彼らには、もう一度自分を振り返る時間を作ってほしい。そして、「大人だからこそ」行動を改めてほしい。

再びコロナが流行りだし、人々の不安が高まりつつある今、彼らはどう動くのか。また同じことをくりかえすのか。私たちの未来は、彼らの行動にかかっている。

京都新聞賞

「私の準備期間」

向日市立西ノ岡中学校 3年

橋本 青空



臨時休校の知らせを受けたとき、私は正直喜んでしまいました。しかし時間が経つと、二年生の終わり方に不満を抱いたり、徐々に早く学校に行きたいと思うようになりました。何故なら、こんなに長い期間友人達と共に学校へ通えなくなることは予想もつかなかったし、さらに休校の延長が発表され、終わると思っていた休校期間が延びてしまったためです。

私は休校中に自分の中の学校の位置付けが変わりました。学校とは強制的に行かされるものは無く、自らが学びたいという意志を持った上で、新しいことを学ぶ場所だと改めて知りました。それ故に学校はこの休校期間の間に私の中で、今まで以上に大切な場所になりました。

私が早く学校へ行きたくなったのにはもう一つ理由があります。それは何故だろうと疑問に思

うほど学校が楽しいためです。何故学校がここまで楽しいのかを、私は次のように考えました。第一に友人や先生方と新しいことを学べる喜びがあるからです。また、学校生活には、特有の大変さがあります。例えば、六時間の授業を毎日受けていること、その後に部活動があることなどです。どちらも一見ただ疲れるだけのように考えられますが、この大変さの中にこそ学校生活ならではの楽しさがあると私は思います。何故なら、休校期間は授業中の教え合い、休み時間の何気ない会話や部活動まで無くなってしまい、あまり楽しく過ごすことができなかつたからです。

また、私たち中学生は思春期や反抗期、部活動や塾などでどうしても家族と過ごす時間が減ってしまいがちです。しかし休校となったこの期間に、家族と話す時間が増えた中学生は数多くいることでしょう。私もその内の一人です。加えて、私は家のこと手伝う機会が増えました。例えば、母と一緒に洗濯物を取り込み畳んだり、弟にミルクをあげ、寝かし付けたりもしました。しかし、手伝う機会と一緒に過ごす時間と共に増えてしまったものがあります。それは些細なことでの、口喧嘩や言い合いです。これは本音で話せる家族の間だからこそ起こるものです。とはいうものの、口喧嘩や言い合いが増えると苛立ちを覚ええます。実際私は、弟をあやすことが上手くできず、母に私が変わるからもう良いと言われてしまい、私は不機嫌になって母や妹に強く当たりました。その度に私は自室に籠もり、自責の念に駆られる

と両親や妹に謝るということを繰り返しました。そこで私はできるだけ、些細なことでの口喧嘩が起らないようにするために、どんな工夫が必要かを、考えました。それは発言や言い回しに棘が無いかを注意するというものです。これは当たり前のことですが、家族の前ではどうしても頭で一度確認するという行程を怠っていたことに気が付きました。自分がかかりたくさんの棘のある言葉や言われた人が傷付いてしまうような言葉を知らぬ間に話してしまっていることが見えてきたので今後は改めていきます。

このように、休校期間は私にとっては感染症防止対策のためだけではなく、成長するチャンスを与えてくれた期間でした。

初めの成長は学校にどんな意識で通うかが変わった所です。以前は通わされているように感じていました。ですが、今は自らの意志で学校へ行きたいと思い通えています。

もう一つ成長できたのは話す前に言葉を選べるようになった所です。この力は人とコミュニケーションを図るときには必要な力なので、つけられてとても良かったです。

休校期間を経て私はこの期間を三年生になる前に急に与えられた、三年生への準備期間だったのではないかと考えました。この期間で培った力を今後の生活で活用し、より良い学校生活を目指します。

京都府青少年育成協会会長奨励賞 「紙の本と電子書籍」

京田辺市立大住中学校 2年
山田陽菜



近年スマートフォンが普及したことにより増えつつある電子書籍。今まで本を読むとすれば紙の本しかなかった。紙の本を読むという文化はこれから廃れていってしまうのだろうか。

少し考えてみれば、電子書籍の便利さや、紙の本の不便さばかりが目につく。例えば、電子書籍はスマートフォンで買ってすぐ読めるのに対し、紙の本は書店まで買いに行ったり、ネットで買ったとしても届くまで待たなければならなかったりする。他にも、紙の本は電子書籍に比べると簡単に破れたり汚れたりして、読めなくなってしまうというデメリットもある。

しかし、紙の本はいまだに多くの人や多くの世代に読まれている。それにはやはり、紙の本ならではの魅力があるからなのではないだろうか。そして、その魅力は本の文化を残していくことであると私は考える。

私が考える紙の本の魅力は大きく分けて三つある。

まず一つ目として、私の本には指でページをめくったり、厚みや重みを感じたりすることの楽しさがある。分厚い本を読み切ると目に見えて達成感があるし、一枚一枚ページをめくり読み進めていくことで、先を想像してワクワクすることもできる。これらが電子書籍の場合、どんなページ数であれ、全て同じスマートフォンの厚み、重さである。だから、これらの楽しみは紙の本ならではのものだと言える。

二つ目の魅力として、紙の本はずっと手元に置いておくことができ、どこでも読むことができる。電子書籍はスマートフォンの使用が制限されている場所があったり、充電が切れた時には読めなかったりする。しかしその点において、紙の本は問題がない。文庫本のサイズならかばんのスペースをとることもなく、紙の本の使用が制限されることもない。また、実際に自分の手に取って本を買い、読んだ後もずっと棚に置いておけるため、時間が経てば経つほど愛着がわくという人もいられるだろう。だから、紙の本には紙の本ならではの良さもあると考える。

三つ目の魅力は、特に絵本に多いのだが、紙の本だからこそできる仕掛けがあるということだ。ポップアップカードのように、ページをめくるととび出したり、動かしたりできる仕掛けがある。例えば『ごあいさつあそび』という絵本では、登場する動物の上半身を折り曲げると、動物がお辞儀をするという仕掛けがある。また、これは一つ目の魅力と似ているところもあるが、大型絵本は大きさ自体がおもしろく、読者の目を引く仕掛けになる。私が小さい頃に読んだ『100かいだてのいえ』を始めとする『100かいだて』シリーズは、縦の長さが幼児の体と比べるとかなり大きく、ページをめくるのも一苦労だ。だからこそ、次のページへのワクワク感も上がるだろう。紙の

本だからこそできる仕掛けとして、布やスポンジなど、紙以外の素材を取り入れ、五感を使って楽しめるものもある。カシヤカシヤ音が鳴ったり、こすると匂いがしたり、ふわふわな布とざらざらの紙の材質の違いを楽しめたりする。また、目が不自由な人にとっては、点字が必要不可欠であるが、紙なら点字を打つことができるので問題がない。さらに、柔らかい素材であれば、小さな子どもにも安心して与えることができる。つまり、紙の本は電子書籍と違い、嗅覚や触覚など、五感を使って楽しむことができ、誰もが安全に本を読めるという魅力があると言えるだろう。

このような紙の本ならではのたくさんの魅力は、これからも紙の本を読むという文化を残していくだろう。もちろん、最初に述べたように、電子書籍には電子書籍ならではの良いところや便利などがある。また、これからスマートフォンなどの性能が上がっていくとさらに電子書籍は便利に、親しみやすくなっていくと考えられる。

また、何十年、何百年先では、スマートフォンを超える機器が生まれ、今は想像できないような方法で本が読めるかもしれない。実際、石に文字を刻んでいた大昔の人たちにとっては、電子書籍だって「想像できないような方法」であっただろう。紙の本にも電子書籍にもそれぞれの魅力があり読まれ続ける理由があるように、新しい本の形もそのときの社会にうまく馴染んでいくと考えられる。

これから紙の本を読む文化は廃れていってしまうのか。今よりも読まれることは少なくなるかもしれないが、少なくとも完全に読まれなくなることはないと思う。これからは、電子書籍や新しい本の形と共に、紙の本も読み続けられる時代になるのではないだろうか。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「笑顔に笑顔で伝える言葉」

京都府立福知山高等学校

附属中学校2年

竹根 一花



嬉しい時、楽しい時、幸せな時。この全ての場面に共通していることは、笑顔であること。誰に教えてもらった訳でもないけれど、私たちは笑うことができる。そんな誰もが出来るという笑顔だが、とてもすごい力を持ったものだと思う。

私が笑顔はすごいものだと考え始めたのは、中学一年の夏頃だった。国語の授業内で、「私」の説明文という内容で自分の中学校生活や生き方、家族について自由に文でまとめた。私は小学校に戻りたいという後ろ向きな思いをたくさん書いた。今でもその時のことをしっかりと覚えている。思い出せば思い出すほど悲しくなっていて、ブログ長文を書くことへのだるさで気分はだだ下がりだった。後日、クラス全員分の文章をまとめた作品集が配られた。この作品集の中の一人の文章が私の価値観を大きく変えることとなった。

「僕が一番大切にしているものは笑顔。笑顔には笑顔を増やす力がある。だから僕は笑顔を大切にしたい。」「始め読んだ時は、正直言って腹が立った。私は仲が良かった子と学校がかわり、新しいクラスになじめずに辛い思いをしているのに、笑顔には笑顔を増やす力があると行って、毎日楽しそうに笑っている彼にイライラした。そのイライラの原因は妬みだったと思う。」

でも、クラス全員が笑うと私も笑わずにはいられなかったのは事実だ。別におもしろい訳でも無いのに笑ってしまっていて、いつの間にか楽しくなっていた。そんなことが何度もあるうちに、私には笑顔があふれかえていた。夏の終わり頃、一人のクラスメートに、

「竹根さんって全然笑わなかったから怖い人だと思ってた。けど最近違ったから話しかけて良かった。ずっと友達になりたかった。」

と言われた。この時、彼の言っていたことを心で理解し、彼に感謝した。笑顔の持っている力に気づいたような気がした。

笑顔のすごい力はいくつかある。一つ目は印象が良くなること。私に友達が出来たのも笑顔が増えてからだ。ただ笑っているからいい人そうというの科学的にも証明されている。アメリカ・ペンシルベニア州立大学の研究によると、「笑顔」は親切に見えるだけでなく能力があると、見える効果があるらしい。彼の周りに人が集まっていたことにも納得した。

2つ目は、幸福感を得られること。笑うことで「幸せの脳内ホルモン」エンドルフィンが分泌され、幸福感がもたらされる。このことにより、別に

楽しいわけじゃないけど、自然と楽しくなっていたのだと思う。

他にもまだまだある。ストレス発散に有効だったり、脳の働きを活発にしたり、また、免疫力を高め病気のリスクを遠ざける力もある。これらは、様々な大学の研究者が実証している。それだけ、笑顔は注目されていて、すごい力を持っているということだ。

今、私が一番大切にしているものを聞かれたら、家族や友達ももちろん大切だけど、間違いなく「笑顔。笑うこと。」と答えるだろう。笑顔の力を知ったから今の私がある。話しかけてくれたクラスメート、笑顔について書いた彼、初めて入ったグループラインのメンバー、今、この文章を書いている時に目の前に座っているクラスメート。全員大切な人で、全員笑顔がはこんで来てくれた。そんな笑顔に心からの笑顔で感謝したい。ありがとう。

私の将来の夢は多くの人を笑顔にできる仕事に就くことだ。笑顔について書いた彼が私の笑顔を創ってくれ、私の人生をかえてくれたように、私も多くの人の笑顔を作り、一ミリでも人生がよい方向へ進む手助けをしたい。そのためには、辛い思いもするだろうし、たくさん涙を流すだろう。全てがうまくいかなくて、イライラするだろう。時には人に当たってけんかもするだろう。大切なものを失う時もいつかはくるだろう。けど、私は笑顔の力を知っている。笑顔には人生をよりよい方向へ進ませる力がある。そんな笑顔を決やさずに、悔いの無い人生を送っていききたい。もう一度言うね。笑顔、ありがとう。これからもよろしくお願ひします

京都府知事賞

「二つの祖国の間で考える」

京田辺市立培良中学校 2年

白 岩 璃 奈



大家好、我叫白岩璃奈。我的兴趣是美术、我很喜欢动漫。

皆さん、こんにちは。私の趣味は絵を描くことで、漫画とアニメが大好きな中学二年生です。

私は、日本人の父と中国人の母を両親に、この世に生を受けました。家庭では、中国語で会話をし、学校では日本語を話し、今日まで過ごしてきました。母の母国である中国と現在生活している日本の両方の文化に触れながら、豊かな子ども時代を過ごしているのです。

これが、私にとっては当たり前の毎日、友人から、「これ中国語で何て言うの。」と尋ねられたり、母の手料理の餃子のおいしさを熱く語り続けています。

しかし、最近、私の目に触れるニュースは、中

国についての悪口という、私にとっては気分の良いくない文字の羅列です。

想像や印象によって中国人全体が貶められることはいけないと感じ、腹立たしさで胸が張り裂けそうになります。私に正しいことを教えてくれ、優しく慈しんでくれる母と、母を生み育ててくれた中国を傷つけられたような気がしていません。二つの祖国の間で、両国のすばらしさを実感しながら十三年間を生きてきた私にとって、最近のぎくしゃくした雰囲気は、心の片隅でずしりと重たいしこりとして、少しずつ重みを増しています。

しかし、私は特別に中国が好きだという訳でもありません。その理由は、どちらの国にも、そこにしか分からない課題があり、様々な人達がそれに基づき思いを抱えているからです。また、両国の祖先たちが築いてきた歴史の中で、未解決のわだかまりがあることも事実だからです。しかし、自分の国を顧みることなく、他国の批判をするのは、正しいやり方だとは思えません。二つの国を祖国とし、その間で今を生きている私だからこそ、どちらの側に寄ることなく、正しいと思うことを正々堂々と言いたいのです。

皆さん、一つの事象を取り上げてその国の人全てが悪いというのは間違っていると思います。間違いを見つけたら、そのままにせず、正しい道に導くための手を差し伸べる優しさを持つてください。

理想を述べているなあと解っています。何かを

口にするときには、理性よりも感情が先行してしまうこともよく理解しています。だからこそ、よい関係を築くための第一歩として、お互いの国の文化に理解を示すことが大切です。今まで知らなかったことを、質問して解決していくような努力をするうちに、互いの国の本当の姿が見えてくるはずですよ。

そんな風に考えると、歩み寄る第一歩は、とても簡単、身近な人とのコミュニケーションを大切にすることではないでしょうか。国と国という大きなもの同士の関係だけでなく、誰にでもできる私と誰かの小さなコミュニケーションで良いのです。重大にとらえずに、明るく軽やかに身近なものとしてとらえてみるのです。例えば、中学校に入学した二つの小学校の生徒同士が、興味を持ちあひ、仲良くなり、学校生活で切磋琢磨する。クラスが団結して行事に取り組み、同じ方向性を持って将来を夢見る。三年後、道は違っても、未来を見据えながら一緒に一歩を踏み出す。

どうですか、皆さん。こんなことを想像しながら過ごすことは楽しいと思いませんか。私一人では力不足ですが、皆さんが少しでも共感し行動してくださいましたら、必ず実現します。

私達が大人になった頃には、世界中の誰もが、スムーズにコミュニケーションを取れるようになることを夢見っています。

ありがとうございます。謝謝。

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「スマホの使い方」

京都府立洛北高等学校

附属中学校 3年

龍見 祐汰



今の時代スマホは欠かせない物となっている。スマホには電話、メール、インターネット、ゲームなど様々な用途がある。私は通学で電車を利用してはいるが、周りを見渡してみると皆がスマホを触っており、どれだけ欠かせない物なのか良く分かる。スマホがとても便利なことは誰が見ても一目瞭然だろう。しかし、便利というメリットだけなのだろうか。少なからずデメリットも伴っているだろう。私はそう思う。

皆さんは、「スマホ十八の約束」をご存知だろうか。これはアメリカのマサチューセッツ州に住む母親が十三歳の子供にスマホをプレゼントする際に同時に渡した十八個の約束である。この約束の内容は全てとても大事なことが書かれている。スマホの使用時間などのことを基本的に様々なことが書かれているが、これだけで十八個の約束

が埋まるとは思えない。私は気になってもっと詳しく見てみた。すると、共感する項目や納得する項目がいくつかあったので、皆さんに是非紹介したい。まず十三個目である。「写真やビデオを膨大に撮らないこと」これだけでは不思議に思うかもしれない。しかし、まだ続きがある。

「人生経験を肌身で経験してください。全てはあなたの記憶に収録されます。」この言葉に私はとても納得させられた。確かに今の時代身近に写真をとれる機械があるのはとても便利かもしれない。加工できたり友達と共有することができるともいれない。けれど、写真が全てではないはずだ。写真には収めることの出来ないその時の感覚は記憶と共に体に残るものだ。だからスマホばかりではなく、肌身で感じて。と母親は子供に伝えたかったのだろう。次は順番が前後してしまうが八個目の項目である。「人に面と向かって言えないようなことをこの携帯を使ってメールなどではないこと」これは最近話題になっている誹謗中傷の問題と通ずるものがあると思う。匿名という立場を利用して誹謗中傷をする。相手のことを何も考えずに。そんなことをしている人に限って面と向かって話す勇気が何も無い人だと思う。このスマホという機器は相手とのコミュニケーションを図る為に人と人との間の中継地点だと、そういう風に思う必要があると思う。だから、決してそんなことをしてはいけないし、そもそも直接話せる距離にある友達とコミュニケーションを図りたいならば、できる限り直接話すべきだと思う。最後にもう一つとても良いと思った項目がある。十四個目の「時々家に携帯を置いていってください」この先にも沢山言葉が綴られているが自分で

考えてみようと思う。もし、スマホ所有者に、出かける時はスマホをいつも持って行きますか。と聞いたとしてみよう。ほぼ百パーセントの方がはいと答えるだろう。なのにこの母親は時々家に置いていきなさいと言った。何故だろう。子供に世界に目を向けて欲しかったのだろう。私はそういう解釈をした。私が電車の中で周りを見渡したら皆スマホに釘付けだったと先程言った。だが、もしその時に体が不自由な方、妊婦さん、ヘルプマークを付けた方が乗っていたとしても皆、席を譲ることが出来なかっただろう。もちろん、普段自分がずっとスマホを見ていてそのような状況に出くわしていたかもしれない。それほど皆、スマホしか見ていないのである。だから、この約束のように時々スマホのことを忘れて、世界を見渡す時間を作る必要があると思う。それはこの子供と自分に限った話ではなく、スマホを使用する皆の話である。スマホのことを忘れると、電車の中だけではなく新たな発見ができると思う。友達との会話が增えるだろう。いや、友達の間で過ぎないかもしれない。

また、自然の美しさにも気づけたりするかもしれない。たった一日でもスマホのことを忘れると本当にたくさんのことが出来るだろう。

このように、スマホは決して便利だけでは済まされることが分かった。もし、時間がある人は是非、この「スマホ十八の約束」に目を通してもらいたい。考えさせられることが沢山あるだろう。そして明日の一日くらいはスマホを家に置いてスマホのことなんか考えずに過ごしてみよう。新たな世界が待っているだろう。

KBS京都賞

「臓器移植について考える」

亀岡市立東輝中学校 2年

谷口優美



みなさんは「ドナーカード」という言葉を耳にしたことがあるだろうか。私がこの「ドナーカード」に興味を持ったのはあるテレビドラマを見たことがきっかけだった。

そのテレビドラマはある男の子が心臓移植を受けるというストーリーだった。私はこのドラマを見て、母にある質問をしました。

「臓器移植はしないの？」

すると母は、「自分の臓器が人の役に立つならしたいと思ったけれど、両親に猛反対された。」と答えてくれた。母の両親は、母が死んで天国に逝った時、せつかく五体満足で産んだのに、臓器がない状態では逝かせられないと答えたそうだ。これを聞いた私は、「世の中には様々な考えをもつ人がいるのだな。」と思った。

現在は二〇一〇年に「改正臓器移植法」が全面施行され、生前に書面で臓器を提供する意思を表示している場合に加え、本人の臓器提供の意思が

不明な場合も、家族の承諾があれば臓器提供ができるようになった。さらに、十五歳未満の人でも脳死後の臓器提供も可能になった。そのことを知って私は母に、「私ももし臓器提供をしたいと言ったらどう？」と尋ねた。すると母は、「あなたが本当にしたいと思うなら、あなたの意思を尊重するわ。私も元々はそう考えていたから。」と答えてくれた。しかし、私は母が賛成してくれるとしても、すぐには決められないと思った。自分の人生に大きく関わるからだ。

そもそも臓器移植とは、重い病気や事故などにより、臓器の機能が低下した人に、他者の健康な臓器と取り替えて機能を回復させる医療のことだ。しかしこれを実際に受けられている人は少ない。さらに臓器を提供する側の意思表示が大切になってくる。意思表示をするには、「健康保険証」、「運転免許証」、「マイナンバーカード」、「意思表示カード」、「インターネットによる意思登録」が必要になる。特に、四つ目あげた「意思表示カード」は「ドナーカード」とも言われている、緑色のカードで、みなさんも一度は目にしたことがあるだろう。その裏面には、「私は脳死後及び心臓が停止したいずれでも、移植の為に臓器を提供します。」、「私は、心臓が停止した死後に限り、移植の為に臓器を提供します。」、「私は臓器を提供しません。」の三つの項目がある。「脳死」という言葉は一度は耳にしたことがあるだろう。「脳死」とは、脳幹を含む全脳髄が不可逆的に機能を消失した状態のことを指す。日本で臓器の移植を希望している人は、二〇二〇年四月三十日現在で、一万四千四十七人だ。それに対して、移植を受けられる人は、年間およそ四百人だ。私はこのことを知って驚いた。移植を希望し

ている人の人数に対して、実際に移植を受けられている人の人数があまりにも少ないからだ。平成二十九年に行われた臓器移植に関する世論調査で、臓器移植に関する意思表示をしている人は、四年前の平成二十五年の調査時より微増している。保険証や運転免許証の裏面に意思表示欄があるのを知っている人は、それぞれ六パーセント増え、五十パーセント以上の認知度があることが分かっている。なのになぜ、移植を受ける人が増えないのだろう。私はこの疑問に対して「知識をもっている人が少ないからではないか」と考えた。私の場合、今回「臓器移植」に関心をもち調べて知識をもつことができた。提供対象となる私たち十五歳未満の人に、これからは特に知識をもつてほしいと思う。そのために私は「学校」という場で体験学習をするのが一番いいのではないかと考える。そこで実際に移植を受けた患者さんや、難しいかもしれないが、臓器提供をされたご家族の方々の話を直接聞いたり、手紙を書いていただく。そうして双方の状況や心情を知ることにより、考えるきっかけをつくる。直接メッセージを発信してもらうことにより、「臓器移植」を身近に感じることができるようではないかと思う。また、「ドナーカード」を実際に手に取ってみる。それが家族と話し合う一つのきっかけになるのではないか。家族との話し合いは必要だ。なぜなら、本人の意思だけでなく、提供には家族の承諾が必要だからだ。そうすることによって、少しでも提供者が増え、移植を受けられる人の命が助かることにつながればと願う。それは、患者さんにとって希望の光となるのだから。私は、もっと周りの人たちの意見を聞き、さらに知識を増やした上で決断をしたいと思う。

京都市町村教育委員会

連合会会長賞

「命を選択する」

与謝野町立江陽中学校 3年

小谷 和



出生前診断の誤診によって誕生し、たった三ヶ月で、その短い人生を閉じた赤ちゃん。生まれたこと自体が誤りであり、その生自体を日本で初めて争われた裁判があります。

「出生前診断」とは生まれてくる前の赤ちゃんが先天的な病気や障害を持っていないか調べる検査のことで、申し込めば誰でも受けられる検査です。しかしこの出生前診断について調べてみると、異常があると分かった親の多くが、中絶という方法を選択しているのが現状だそうです。このように診断の内容から生まれてくる前に命を選択する。そんな出生前診断に疑問を持ってしまいます。

この裁判を起こした母親も出生前診断を受けました。少しでも不安を取り除きたい。そんな思いがあったはずですが、ところが医師は、実際にはダウン症との診断が出ていたのにも関わらず、調査報告書の内容を見落とし「異常なし」と伝えて

しまっていたのです。そして生まれてきた男児はダウン症に起因する症状のため三ヶ月後に亡くなりました。この結果を受け、両親は「出産するか中絶するか自己決定する機会を奪われた。こうなると分かっていたら中絶していた。」として医師を提訴し、多額の損害賠償を求めたのです。既にこの世に生まれた命を出産するか中絶するか自己決定する機会を奪われたとはどういうことなのでしょう。三ヶ月で亡くなったこの子がどう感じるだろうと考えたとき、私はこの母親に対して、怒りが込み上げてきました。

しかし、この数日後、訴状が訂正されました。「こうなると分かっていたら中絶していた」という内容から、「中絶していた可能性が高い」と書き直されたのです。「中絶していた」とはつきり書いた方が裁判では有利になります。それでも書き直したのです。驚きました。もしかするとこの母親は、この子を産みたくなかった訳でも、多額の損害賠償が欲しい訳でもないのかもしれないと思います。さらにこの裁判や母親について新聞や本を読み進めました。

「あの子を産めたことは嬉しかった。だから中絶していたとは言えないのです。」なぜ訴状を訂正したのかという質問にこう答えたそうです。全く望まれず生まれてきた命ではなかったのだと少しほっとしました。ではなぜ裁判を起こすのか。周囲はそう問いました。「裁判に訴えることは子どもの命を否定することになるのですか。誤診をされ、苦しんで死んだあの子に謝ってほしかっただけなのに。私たちは被害者なのではないのですか。」こう答えたそうです。病気の診断での誤診であれば、誰もがその誤診を責めるでしょう。しかし、この命はその誤診があったからこ生まれてきた命だったかもしれないのです。そして私が大きなショックを受けたのは「中絶していただければ戸籍には残らない。でも障害を持って生まれてきた子は戸籍に残る。それがあの子の兄

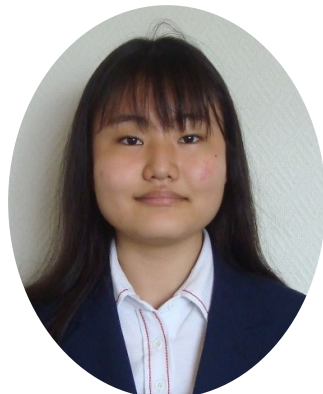
弟に何らかの妨げにならないか心配になるのです。」という言葉です。ある資料を読んで知ったのですが、親族に障害のあることから結婚や出産時に差別の目を向けられることがあるようなのです。このような心配をしなくてはならない環境があるということが深く心に突き刺さりました。だから、出生前診断を受ける人は沢山いるのだと思います。

生まれてこない方がいい命なんてない、障害を持っていないからと中絶するのはおかしい、そう思っているから、誰だって、生まれてくる子の五体満足をお願いします。だから、心の準備でもある出生前診断は大切な権利なのかもしれません。しかし、その一方で辛い思いをしている人がいることは誰もが知るべき事実なはずです。また、その母親の選択が「産む」だったとしても「産まない」だったとしても悩んだ末の結果であることが重要だと考えます。そして出生前診断も私たちから見れば命を選択する、そんなひどい診断に見えてしましますが、産むことに対して不安になるような環境だからこそ、真剣に考えて受けた診断なのではないでしょうか。その診断での誤診は、そんなお母さんの大きな決断を裏切るものだったかもしれないと考えようになりました。

だから、この裁判を起こした母親を、出生前診断を、命を選択することを、周りが正しい、正しくない、と判断できるものではないと考えます。それよりも大切なのは、自分の意志で最後の選択が出来る、ということなのではないでしょうか。どの選択をしたとしても後悔はのこるかもしれない。だからどんな選択をしたとしても、その家族が将来をイメージすることのできる環境が必要なのだと思います。自分で選択すること、そしてそれができる環境の大切さを伝えていきたいです。

京都市PTA連絡協議会会長賞 「SNSの情報との向き合い方」

京都市立勸修中学校 3年
山田 美 優



あなたは、「デマ」に惑わされたことがあるだろうか。

近年、大きな災害や事件による社会の混乱に乘じて、SNS上でデマを拡散する人が増えている。例えば、ティッシュやトイレトペーパーが品薄になっているという根拠のない情報が広まり、各地でそれらの買い占めが起きたことは記憶に新しいだろう。

このようなデマに踊らされないために、私達情報の受け取り手は、情報の精査をしっかり行い、情報の拡散はとも慎重にする必要がある。

そこで、私は自分なりの情報への心構えを持ち、真偽の見分け方を知っておくべきだと考える。

SNSを見ると、厚生労働省等の政府の公式アカウントはシェア数が二〇〇〜一〇〇〇、いいね

の数が一〇〇〜一〇〇〇であるのに対して、緊急性があり、不安を煽るような情報は信頼できるかどうかに関わらず、数千ものシェア、万単位の「いいね」がついていることが多い。つまり、根拠云々より感情を揺さぶる情報の方が事実より拡散されやすいということである。たくさんのシェアや「いいね」がされているからといって、それを鵜呑みにし拡散するのは危険である。

情報を見極める上でもっとも大切なことは、「根拠やデータをはっきり示しているか」、「発信源は信用できるか」であると私は考える。SNS上で広まるデマの多くは、「友達の医療従事者によると〜」等、信用ならない情報源からの又聞きが多い。根拠・データ・発信源のどれか一つでもあやふやなものは、デマとして扱うのが良いだろう。

次に、自分がデマの発信源となる可能性を理解しておくことも情報を扱う上では大切である。もしも自分が世に発信できる情報を持っていたとして、何も考えずに発信するのではなく、先に述べた「根拠やデータ」「発信源」この二つを用いてふるいにかけるのが良い。

さきほど私は情報を見極める上で重要な事を二つ述べたが、実はもう一つある。それは、「多角度から見ると」ということだ。例えば、新聞に記されるような情報は、それぞれの社によってもデータ上の数字・過去からの予測等、注目する箇所も変わってくる。様々な視点から情報を読み取り、自分なりに咀嚼することも情報を見極める上ではとても大切である。

ここまで情報の発信や受け取る際に気を付けることばかりを書いてきたが、私は「拡散」を特に気を付けたいと考えている。情報の拡散は時に取り返しのつかないことになることもある。新型コロナウイルスが流行している昨今、加湿器で次亜塩素酸ナトリウムを散布すれば、空間除菌ができるという情報が多く出回った。しかし、確かに次亜塩素酸ナトリウムは除菌をすることはできるが、人体に非常に有毒である。それを知らずに拡散し、健康被害を負ってしまった人がたくさんいる。私達がきちんと情報を見極めず、「拡散」してしまったせいでこのようにとり返しのつかないことになってしまうこともあるのだ。

以上のことをまとめると、私なりのSNSの情報への向き合い方は、いいね、シェア数が多い情報であっても、鵜呑みにして拡散しない。根拠やデータをはっきり示していない情報や、発信源がはっきりしない情報は信用しない。自分がデマの発信源となりうることを理解する。情報は多角度からみて判断する。等である。

この玉石混交な情報が入り混じる社会では、情報を正しく判断し扱う力が必要不可欠である。もちろんこのような情報との向き合い方は私なりのものであって必ず正しいという訳ではないだろう。

だから、こんな緊急事態だからこそ、今一度自分なりの情報との向き合い方を考えてみてはどうだろうか。

京都府青少年育成協会会長奨励賞 「自分次第」

向日市立西ノ岡中学校 3年
北畑 美 優



「楽しい」って何だろう？「楽しい」と思える時はいつなんだろう。その頃の私にはまだ分からなかった。

中学一年生の頃、正直私は体育祭が嫌いだった。楽しくないし面白くもない。ただただ参加したくなかった。一年生から三年生が同じチームになり、「教え合い」「助け合い」「協力し合う。」その頃は、全てが嫌いだったので私にとってとても面倒なことだった。

何でやらないといけないの？
何のためにやらないといけないの？意味が分からなかった。毎日の練習が嫌で嫌でたまらなかった。そんな時、とても楽しそうに練習している三年生の姿が私の目に焼きついた。その三年生を見て私は分かった気がした。楽しく練習している

人は楽しもうとしているから楽しいんだと。楽しむことができなかった中学一年の体育祭は、悔いが残る形で終わってしまった。

一年後、私は昨年学んだことを実践してみることにした。思うとなんだかやる気がわいてきた。そして、「今度こそ悔いのない体育祭にしたい。」そう思った。体育祭には毎年恒例の色別大縄跳びがあり、この種目は、一致団結、がとても重要な種目である。初日はクラスがまったく団結してなくて、とても悩んだのを覚えている。クラスのみんなでも何回も何回も作戦を練って、練習して、試行錯誤を重ねた。それは、私にとって苦痛なことではなく、とても楽しかった。なぜなら、クラス全体が徐々に成長している過程が目に見えたからである。このことから、成長すること、成長が見えるということは「楽しい」につながっていると言えるのではないだろうか。

本番当日、私達は緊張と不安でいっぱいだった。そんな中、クラスのみんなが「自分たちならできる。」「みんなで一致団結すればできる。」と励まし合った。私はこの時のクラスから、仲間の良さを感じた。そして、なんだかほっこりした気持ちになった。仲間がいるから頑張ることができきるし、目標に向かって一緒に進むことができきる。それに何より、安心する。仲間の存在がいかに大切な、身に持って感じた瞬間だった。

もう、大縄跳びがそこまで迫ってきている。いつもは、この時間が一番緊張する。「うまくいく

かな」とか「自分のせいで足を引っぱってしまったらどうしよう」とかいろいろ考えてしまう。でも、今回は違う。なぜなら、一緒に励まし合った仲間、これまでの練習を頑張る、楽しんだ自分がいるからだ。

ついに、大縄飛びが始まった。いよいよ私たちの番だ。心を整える暇もなく、慌ただしく始まった。私たちは初めより一致団結し、これまで積み重ねた練習通り頑張る、楽しんで跳んだ。しかし、記録は更新されることなく終わった。悔しい気持ちも少しあったが、やり切った感じでもって清々しい。結果は良くなかったけれど、私にとってこの日の大縄飛びは楽しい思い出になった。

「楽しい」と思える時は、自分から楽しもうとしている時、成長してできなかったことができた時、仲間と一緒に頑張った時だ。「楽しい」と思えるのは成功した時や達成した時ばかりではない。失敗しても、達成しなくても、自分の中で頑張れたこと、みんなを力合わせたことが思い出となって心に残るだろう。失敗したことも、達成しなかったのも大切な思い出。それが楽しかったか、楽しくなかったかは、そこに至るまでの「自分次第。」

京都府青少年育成協会会長賞 「心の眼」で見る社会

京丹後市立大宮中学校 3年

吉岡 桃奈



突然ですが、質問を二つさせて下さい。一つ目、障害のある人を見かけたことはありますか？二つ目、見かけた時のあなたの「目」は、どんなものでしたか？この私の主張で、皆さんの障害に対する考え方が少しでもいいものになってくれると嬉しいです。

私の姉は重度の知的障害があります。そのため勉強のスピードが遅く、難しい言葉では伝えられません。ですが、毎日姉なりに頑張っています。最近、書けるようになった字も増え、母と協力してお弁当をつくってみたい、家族みんなの食器を洗ってくれたり、毎日が成長の連続です。少しずつできるようになっていくことが増えると、私も嬉しくなります。今でもけんかはたくさんするけれど、陰ながら毎日の挑戦を応援しています。

ですが過去に、悲しい出来事がありました。

とあるテーマパークに行った時、「もう歩きたくない。いやだ。」と姉が泣いて動かなくなりました。背が高く見て目は中学生の女の子が突然グズグズ言うので、周りの人は姉をチラチラとみるようになりまし。奇妙なものを見るような、冷たい視線。幼い私にとってはその視線が怖くて仕方なかったです。これと同じような経験は、その後も何回かありました。何気ない視線が時に人を傷つけるのです。

この経験を通して、障害者やその家族を取り巻く環境で大切にしたいことを見つけました。それは、「心の眼で見る」ということです。私の考える「心の眼で見る」とは、目から入る表面的なことや事実だけで判断するのではなく、物事や人についてその背景に目を向けて深く考えることだと思います。私の姉を、「変な人」という目で見ると、「何か事情があるのかな」と疑問を持ち、相手の事情を想像しようとするのでは全然違うと思います。

心の眼で見ると、困っている人に取って必要なことが見えてきます。そして自分で考えて動くことができれば、誰もが生きやすい社会になると思いません。健康が一番ですが、今後いつ自分が障害を持つかわかりません。その時支え合える環境が作られていることはとても大切なことだと思います。

また心の眼で見るとは、障害者と関わる人々にとっても大切となります。障害のある人と向き合っていくことは、とても難しいことです。私自身、昔は姉のことが嫌いでした。みんなのお姉ちゃんとは違う、普通のお姉ちゃんもつとこうしてくるのに。どうしようもないのにずっとそう

思っていました。そんなことを思ってしまう自分もいやで、苦しい思いをしたこともありまし。最近、友達に姉について聞かれた時、話すことをすこくためらいましたが、勇気を出して話してみました。すると友達は「お姉ちゃんすごいね！知れてよかった。」と言ってくれました。姉のこと、姉の妹として今までいろんな思いを持ってきた私を認めてくれたようで、心が温かい気持ちになりました。とても嬉しかったです。

最近では、障害者と関わる人の負担や苦しさも問題となっています。周りの支援はとても大事です。障害者もその周りの人々も笑顔でいられる環境をつくっていくこともとても重要だと感じます。そこで心の眼で見ることが大切なのです。実際に出来ることは少ないかも知れません。ですが、大変そうだという一言で終わらせず、自分ですしでも考えてみてほしいです。身内に障害者と関わっている人がいたら、頑張っているねと声を掛けてみる、いなかったら深く考え、理解しようとする姿勢をとってみる。それだけでも周りが笑顔でいられる環境をつくる第一歩になると思います。

姉の生き方、私の生き方が違うように、すべての人の生き方は違います。障害を害のまままで終わらせてしまうのか、個性として大切にされていくのか。私たちの笑顔は、あなたの「心の眼」にかかっています。

さあ、今日からこの社会を心の眼でみてみましょう。きっとみんなが笑顔になれる社会に繋がると私は信じています。

京都府青少年育成協会会長奨励賞 「人を思いやるということ」

向日市立勝山中学校 1年
加藤 小 暖



みなさんは思いやりを持って人と接していますか？思いやりについて考えたことはありますか？

私が小学生の時の同級生に、足に障害を持ったクラスメイトがいた。私はその子と同じクラスになることが多く、林間学習や修学旅行で班行動をする時、車イスを押ししたりするなど介助を任されることも多かった。そのため、高学年になった私は、友達と自由に行動できないもどかしさもあり、「なんで私ばかり…」と、いつしかその子のお手伝いを重荷に感じる自分がいた。手伝わなくても「ありがとう」も言ってくれない。その子にとってやってもらうことが当たり前になっているのではないかと疑問に思うこともあった。

しかしそれは、私の一方的な考えであり、その子の気持ちを全く知ろうとしていなかった。その子は心の成長がゆっくりで、私達のように感情を上手に伝えることができなかったのだ。私は外見

的な障害は理解していたつもりでも、その子の内面的な性格については全く理解しようとしていなかったのだ。

そのことに気付いた時、今までの私の行動はその子に対して思いやりを持った行動ではなかったのでは？と振り返り考え直すきっかけになった。

自分の言動がいつのまにか人を傷つけているかもしれない。そうならないためにも、相手のことをちゃんと理解してあげることが思いやりとなり、相手を大切にすることにつながると学んだ。

人と人との関わりには、対面に限らずいろいろな形がある。

最近SNSが進んだおかげで、顔が見えない相手とも情報を共有したりすることができ、とても便利だ。

しかし相手が見えないという気軽さのせいで、そこに心が存在するということを忘れてしまい、相手の心を無視した言動も増えている。軽はずみに悪気がなくてもいつのまにか相手を傷つけてしまう危険性もある。

顔が見えないSNSの世界であっても、人の心は存在する。中にはとても繊細な心の持ち主もいるだろう。相手の顔や性格や人柄、何も知らないのに自分の考えだけを押し付けたり相手の人間性を理解していない言動は、思いやりとはかけ離れた自己満足になる。

まずは相手のことを理解しようとする気持ち、これか思いやりなのではないだろうか。そして言葉や投げかける前に、「自分だったらどう思うだろう」と相手の気持ちになって考えることが大切だ。

目の前にいる相手にも顔の見えない相手にも、全てにおいて人としての思いやりの心を持つて

接したい。

SNSの世界は、時には思いやりにあふれている。今世の中が新型コロナウイルス感染で危機にさらされている中、私は思った。


私は約2ヶ月間あまり学校にも行けず、自粛生活をし人との関わりをがまんしてきた。そんな中、さみしさをまぎらわしてくれただのが、SNSでの人とのつながりだ。直接会えなくてもそこにいるような画面越しの会話。近くにいないてもつながっていられるうれしさがあつた。そこには人と人の心があつた。心と心がつながっていた。

世の中全体が同じ状況で、同じ気持ちで、周りの大切な人の命をうばってしまおう事のないよう、しっかりと自粛生活をするこも、人を思いやるということだと感じた。

このように思いやりの形には自分以外の人のことを考える事が大切なのだ。たとえ目の前にいなくても、その人のことを深く考え、心と心で会話をするということが思いやりにつながるのだと思う。

私は将来、看護師になりたいと思っている。看護師は人と関わる仕事だ。病氣と闘っている人、病氣に負けそうになっている人、今にも心が折れそうなる人；いろんな心を持った人がいるだろう。心と心で向き合って、人の心の痛みが分かる思いやりを持った看護師になりたい。

思いやりは相手の存在を認め、人の気持ち、心を大切にすることだ。思いやりは目に見えなくても心に伝わる。私はそう信じている。一人一人が思いやりの心を持ち、いつか世界中が思いやりであふれたなら、きっと平和な世界になるだろう。



第42回「少年の主張京都府大会」

講 評

京都府教育委員会の柳澤でございます。

まずは、発表者の皆さん、本当にお疲れさまでした。皆さんは、府内各地から寄せられた多くの作文の中から、1次審査、2次審査を経て、この京都府大会の代表に選ばれました。このことは、高く評価されますし、府大会の舞台に立った自分に、自信と誇りをもってください。

中学生の皆さんの主張には、友達、家族、学校生活、命、思春期の心の葛藤など、時代を越えても変わらないテーマがありますが、その切り込み口や着眼点には、時代の特徴が反映されています。一方で、社会の変化を反映する、例えば情報化社会と関連付けられるテーマが近年増えつつあります。また、今年については、新型コロナウイルス感染症の拡大とその予防の中で、感じたことや考えたことをテーマとする主張が見られました。

テーマやそのテーマをとらえる視点に違いはあるけれども、中学生の時期というのは、自分の生き方や社会への関心が高まり、そのあるべき姿を模索し、自分の考えとしてまとめ、提言・提案をしようとする意欲が高まってくる時期という点では共通しています。

実は、このことは、今回の審査にも関係しています。主張の展開や話の内容が論理的で安定しているかはもちろんのこと、発表に中学生としての鋭い感性、みずみずしい感性がみられるのか、また、個人の体験だけを縷々述べるのではなく、提案や意見を社会的、一般的なものとして広めようとするアイデアがあるのかもポイントになりました。

審査委員が作文を読むという形式ではなく、発表を聴くというスタイルでの審査でしたので、「説得力のある話し方であるか」や、「聴き手にとって印象に残る発表であるか」も審査の大きなポイントになりました。

その中で、京都府知事賞を受賞された白岩さん、本当におめでとうございます。『二つの祖国の間で考える』の主張の中で述べられた、「身近なコミュニケーションを第一歩とした」という提言、しっかりと受け止めさせていただきました。

また、賞の名前は異なろうとも、本日のどの発表も質が高く、審査員一同、一人一人の心からの思いをしっかりと受け止めさせていただきました。

発表者の皆さん。皆さんの考えや思いは、すぐに実現・実行できるとは限らないことと思います。焦らなくても結構です。日常生活の中で、それがにじみ出るようなものであってほしいと私は願っています。

保護者の皆様、学校やPTAの関係者の皆様、本日の大会の様子や一人一人の発表にみられたよさを御家庭で、学校で、あるいは地域の中で話題にし、その内容を発表者にお伝えいただければと思います。そのメッセージは、発表者にとって私の講評よりもずっと価値あるものになると考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、落ち着いたある、適度な緊張感のもとで運得にあたられた司会のお二人の中学生と事務局の皆様にご挨拶申し上げます。以上で、私の講評を終わらせていただきます。

京都府教育庁指導部学校教育課

首席総括指導主事 柳澤 彰 紀

「少年の主張全国大会」

「わたしの主張2020」

内閣総理大臣賞受賞作文

言葉を紡ぐ

鹿児島県 霧島市立横川中学校 三年

池島 音羽

「音羽ってさ、最近調子乗ってるよね。偉そうにさ。まじ、ウザい。」

それは、突然のことだった。冬が、静かに足音を忍ばせながら近づいてきたあの日。放課後の教室に冷たい風が吹き抜けた。息ができなかった。ただ、茫然と立ち尽くすしか。心の奥を鋭い刃物でえぐられる。無理に笑おうとすると、頬が引きつった。私、今、どんな顔してるんだろう。真っ白な世界にただ一人取り残された。頭の中に浮かぶのは、疑問だらけ。ついさっきまで、仲良く話してたよね。どうして。どうして私が。私、そんなに調子に乗ってたかな・何か、悪いことしたかな。その日からすべてが変わった。ひそひそ話をする友人の姿を見ては、その場から逃げ出した。怖かったから。きつと自分のことをいってるんだらうって思った。そそくさと教室を出る私の背中に浴びせられた言葉。

「ほんと何なのけ。ウザいんだけど。」

誰かに相談したくてもできなかった。相談したら、また何かいわれるんじゃないかとおびえる日々。ベッドに横たわって意味もなく天井を眺めた。頭の中の何かがプツツと切れた。気づいたら側に母がいて、私はすべてを打ち明けた。瞬きもせずに私の話を聞く大きな瞳に泣きじやくる私の姿が映っていた。

「今まで辛かったね。あんたはすぐに一人で抱え込む癖があるから、誰にも相談できなかったんでしょ。今、お母さんに言った気持ちをはんの少しでもいいから相手の子に伝えてごらん。何も変わらなかつたら、また、お母さんのところに戻ってきなさい。」

夕飯に出されたお味噌汁を一口すると、心の中に溜まっていた何かがふっと抜けていった。久しぶりに感じたこの暖かさ。でも、どうやって伝えたらいいの。直接、言える勇気なんて私にはない。だったら、どんな形であれ、自分の気持ちを伝えなきゃ。だって、私には帰って来られる場所があるんだから。

その夜、私はスマホを握りしめた。「LINEを開き、ずいぶんと更新されていない画面を見つめ、自分の思いをしたためた。何度も何度も文字を打ち直した。私が悪いのなら何がいけなかったのかを教えてほしいということ。陰で言われるのはとても辛いということ。送信ボタンを押す手が震え、どれだけの時間が経っただろう。これがきっかけで何かが変わるというんだろうか。」

翌朝、既読のサインは付いたが、返信はなかった。学校についてもいつもと変わらない

景色がそこにあった。「ごめん。」背中越しに聞こえた言葉。それは突然だった。伝わったんだ。少しづつ、私の世界に色が戻ってきた。「何か、気に入らないことがあったら、教えてね。」

途切れ途切れの私の言葉。ステイブ・ジョブズ氏は「想いを形にして、想いを言葉にして、想いを伝達する。いくら素晴らしいものを作っても伝えなければいけないと同じ。」と語る。そのは諸刃の剣。時に人を傷つけるが、人を救うことだってある。世の中は情報化社会だ。これから先も、私たちは情報の渦の中で生き抜くことになる。何を学び、どんな力を身につけなければならぬか。今、文科省が勧める「GIGAスクール構想」。この目的は、一人一台のコンピュータと、一人一人の個性に合わせた学習の実現だと言われている。多くの情報を活用する力が私たちに求められているのだ。だが、その基盤にあるものは何だろう。どれだけ、情報化の波が押しよせようと、人間が人間としてあるためには、想いを言葉に紡ぎ、相手に伝えることではないか。そして、人と人がつながることではないか。新しい時代を築けるのではないか。帰宅した私を母が笑顔で迎えた。「何か食べたいものある。」

私は迷わず答えた。「お味噌汁。飲みたい。」

作文募集ポスター



大会の様様を **You Tube** に up しています。





京都府立青少年海洋センター

マリンピア



青少年団体から一般団体・各種サークル等の利用可能な**宿泊研修施設**

★家族利用 Day では、ご家族での利用も可能です。(体育館、講堂等の施設利用料や食事は別途必要です。)

●スポーツ・ゼミ・吹奏楽等合宿 宿泊定員:225名(大人)

- ・バドミントンや、バスケットボールはもちろんレスリング合宿も受け入れ可能です。(レスリングマット常備)
- ・研修室、講堂での研修も可能です。100名規模の吹奏楽、レスリング合宿の受け入れ実績もあります。
- ・市街地から離れた立地のため吹奏楽部、応援団、音楽サークル等にも最適です。

●日帰り利用について

アスレチック、ボルダリング場、トレーニング場、芝生の広場の利用が可能です。
 ※宿泊者の利用を優先しますので、詳しくはご連絡ください。

▲体育館(冷暖房完備)



▲ボルダリング場



▲講堂(約200名収容)



▲リーダー室(定員5名)5室



▲宿泊室(定員10名)20室

●令和2年度の主な事業



▲親子でカヌー体験



▲親子で野外炊事体験



▲自然散策・フィールドアスレチック
体験と野外炊事

京都府立青少年海洋センター
＜マリンピア＞

電話 0772-22-0501

住所 京都府宮津市田井 382



マリンピア
WEBサイト

公益社団法人 京都府青少年育成協会は、

昭和42年に当時の府政の基本的な方針に沿って、京都府青少年育成協会の前身、「青少年育成京都府民会議」を結成し、青少年育成府民運動を進めることとなりました。(平成25年4月1日付で、公益社団法人に移行)

平成29年9月、協会創立50周年を記念して制定しました、青少年健全育成府民運動スローガン「気づいてる？ あなたのまわりの あたたかさ」のもと、「明るい家庭と地域の輪が育てる心豊かな青少年」を合言葉に青少年をあたたかく見守り、その健やかな成長を支援する健全な社会づくりを推進するため、官民一体となった青少年健全育成府民運動の活動を展開しています。

また、京都府立青少年海洋センター(京都府)及び宮津市B&G海洋センター(宮津市)の各施設について、京都府から指定管理者の指定を受けて管理・運営しています。

正会員・賛助会員の募集 (入会の御案内) 青少年の健全育成に、是非とも、あなたのお力をお寄せください。

《正会員》青少年活動を支援し、推進していただける団体・個人の方(総会への参加を通じて、事業計画の決定に参加していただけます。)

■年会費 (団体)年額3,000円(個人)年額2,000円

《賛助会員》青少年育成活動に感心があり、資金面で支援していただける団体(企業)・個人の方

■年会費 (団体・企業・個人)年額2,000円 1口以上

【入会方法】(公社)京都府青少年育成協会まで御連絡ください。

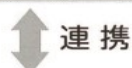
TEL075-417-0602 FAX075-417-0603 e-mail kpyda@cello.ocn.ne.jp

【会員の特典】 ■協会広報誌「わかもの京都」の送付
■「少年の主張京都府大会」「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」の作品集の送付
■「京都府青少年すこやかフォーラム」の開催案内をはじめ、青少年に関する情報の提供(随時)

青少年育成府民運動のネットワーク

青少年関係行政機関

- | | | |
|---------|------------|------------|
| ◇ 内閣府 | ◇ 京都府 | ◇ 市町村 |
| ◇ 文部科学省 | ◇ 京都府教育委員会 | ◇ 市町村教育委員会 |
| | ◇ 京都府警察本部 | |



(公社)京都府青少年育成協会

構成団体【会員】

- | | |
|---|-------------|
| ◇ 青少年育成市町村民会議
※青少年の健全育成や非行防止のために活動を行う市町村単位の青少年育成活動推進組織を「青少年育成市町村民会議」と呼んでいます。 | ◇ 青少年(育成)団体 |
|---|-------------|

青少年をあたたかく見守る地域社会づくり
青少年の健やかな成長への支援

《青少年健全育成啓発チラシ》

内容

「青少年の健全育成」 「少年非行、いじめ」
「ひきこもり、児童虐待」 「インターネット」
「薬物乱用防止」 「青少年相談窓口」 など

気づいてる?
あなたのまわりの あたたかさ
—青少年健全育成府民運動スローガン—

京都府民のみなさまへ
青少年をあたたかく見守る
地域社会づくりを
推進しましょう

明るい家庭と地域の輪が育てる
心豊かな青少年

公益社団法人 京都府青少年育成協会

青少年の健やかな成長にとって、家庭の役割の大切さを認識していただくため、毎月第4土曜日を「家庭の日」と定め「明るい家庭づくり運動」を推進しています。

詳細は、(公社)京都府青少年育成協会 HP をご覧ください。

URL <http://kyoto-seishonen.or.jp/>



育成協会 HP QRコード

公益社団法人 京都府青少年育成協会

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町 104 番地の 2 京都府庁西別館 3 階
TEL 075-417-0602 FAX 075-417-0603 e-mail kpyda@cello.ocn.ne.jp